

平成 29 年度市町村保健事業担当者研修会開催レポート

〈開催日：平成 30 年 2 月 22 日（木） 会場：埼玉県男女共同参画推進センター〉

去る 2 月 22 日、広域連合において初めての「市町村保健事業担当者研修会」を開催しました。医療と介護の連携を強化することを目的の一つとして、介護部門等の関係部局にも参加を呼びかけたところ、県内 39 市町村のほか、県及び国保連合会から計 69 人の職員に参加していただきました。

○メインテーマは『フレイル』

本研修では、埼玉県立大学で老年看護学を専攻なさっている林裕栄（はやしひろえ）教授を講師に迎え、『高齢者とフレイル』というテーマでご講演をいただきました。主に後期高齢者医療の事務を担当する事務職員と、介護部門等の保健師など医療専門職が同席しての研修会において、フレイルの基礎をご説明いただきながら、かつ、専門的な内容についても紹介していただきたいという難しい条件にもかかわらず、豊富な資料をご準備いただき、丁寧に説明していただきました。フレイルには、“身体的フレイル”だけでなく、“精神的フレイル”及び“社会的フレイル”といった多面性があること、予防には地域活動への参加の重要性が高いことなど、フレイルについての理解を深めることができました。



講師：林教授（埼玉県立大学）

○広域連合の保健事業についても説明しました



熱心に耳を傾ける参加者たち

講演のほか、広域連合職員からは、平成 30 年度から新たに始まる次期データヘルス計画について説明しました。特に、重点項目である『歯科健診結果を活用したフレイル対策』及び『生活習慣病の重症化予防（医療機関への受診勧奨）』については、平成 29 年度に試験的に実施した結果を、事例を交えて紹介し、来年度からの本格実施への協力を求めました。

参加者の声（アンケートから抜粋（要約））

- ・ フレイル対策の重要性が理解できた。閉じこもりや社会性のあまりない高齢者に対し、どうアプローチしていくか考えなければならないと感じた。
- ・ 専門的な用語も少なく、事務職にも理解できるよう工夫されていた。
- ・ 事例を通じ、個別介入の効果や、必要性を理解できた。
- ・ 個別介入や介護部門との連携の重要性が分かった。一方で、継続的なフォローや保健師の不足など、体制面での課題を感じた。
- ・ 医療と介護の連携の必要性は強く感じている。日常業務に追われる中で新たな取組をスタートするには、このような研修を通じて自身の意識を高めることも有効と感じた。
- ・ とても良い研修だった。県内市町村が同じ方向性をもって取り組んでいけたら良い。

来年度以降も毎年、研修会を開催しますので、またのご参加をお待ちしています。